

民主化時代のインドネシア

政治経済変動と制度改革

佐藤百合編

アジア経済研究所

研究双書 No.525

佐藤百合編 『民主化時代のインドネシア 政治経済変動と制度改革』

Minshuka Jidai no Indonesia – Seiji Keizai Hendō to Seido Kaikaku –
(Democratizing Indonesia: Politics and Economy in Historical Perspective)

Edited by

Yuri Sato

Contents

- Chapter 1 The *Reformasi* Period in Historical Perspective (Yuri Sato)
Chapter 2 Politics of the 1945 Constitution: Democratization and Its Impact on Political
Institutions (Koichi Kawamura)
Chapter 3 Party Politics in Post-Soeharto Indonesia: Change and Continuity
(Rizal Sukma, translated by Koichi Kawamura)
Chapter 4 From Dominance to Participation: Military Politics of Democratic Adaptation
(Jun Honna)
Chapter 5 Decentralization in Nation Building (Kazuhisa Matsui)
Chapter 6 Reforming Economic Structure: Policies for Intervening in Economic
Ownership (Yuri Sato)
Chapter 7 Industrialization since the 1970s (Masami Ishida)
Chapter 8 Transformation of the Financial Sector (Miki Takeda)

[Kenkyū Sōsho(IDE Research Series)No. 525]

Published by the Institute of Developing Economies, 2002
3-2-2, Wakaba, Mihama-ku, Chiba-shi, Chiba 261-8545, Japan

さとう ゆり
佐藤 百合 (地域研究第1部主任研究員)

かわむら こういち
川村 晃一 (地域研究第1部)

Rizal Sukma
リザル・スクマ (戦略国際問題研究センター CSIS)

ほんな じゅん
本名 純 (立命館大学専任講師)

まつい かずひさ
松井 和久 (地域研究第1部)

いしだ まさみ
石田 正美 (経済開発分析プロジェクト・チーム主任研究員)

たけだ みき
武田 美紀 (在ジャカルタ海外派遣員)

執筆順

民主化時代のインドネシア

政治経済変動と制度改革

研究双書525

2002年3月28日発行©

編者 佐藤百合

発行所 日本貿易振興会 アジア経済研究所

千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2番2 〒261-8545

研究支援部 電話 043-299-9735

FAX 043-299-9736

印刷所 日本ハイコム株式会社

定価 [本体4700円 + 税]

ISBN4-258-04525-X

民主化時代のインドネシア

目 次

まえがき

第1章 インドネシア史における「改革の時代」	佐藤百合... 3
はじめに	3
第1節 五つの時代区分，三つの視点，三つのアプローチ	4
第2節 政治体制，経済体制，国家 - 社会関係の歴史の変遷	6
1．政治体制の変遷	6
2．経済体制の変遷	9
3．国家 - 社会関係の変遷	11
第3節 スハルト体制変容期に何が起きていたか	13
1．スハルト体制変容期はなぜ重要か	13
2．「上からの民主化」とその限界	15
3．経済自由化への対応の二面性	17
第4節 「改革の時代」に何が起きているか	18
1．政治体制の転換 自由化から新たな制度の模索へ	19
2．経済構造の改革	21
3．中央 - 地方関係，国家 - 社会関係の変容	24
第5節 「改革の時代」の歴史的位置づけと今後の行方	26

第2章 1945年憲法の政治学

民主化の政治制度に対するインパクト	川村晃一...33
はじめに	33
第1節 1945年憲法の制定	35
1．1945年憲法の統治構造	36
2．政治制度の思想的淵源	38

3. 正統性原理としての「家族主義」思想	40
第2節 1945年憲法と権威主義体制	43
1. 権威主義体制を支えた憲法規定	43
2. 国民協議会制度と権威主義体制の合憲的成立	46
3. 「組織代表」論の思想的淵源	51
4. 1945年憲法と基本的人権	53
第3節 民主化と1945年憲法	55
1. 政治3法の制定と第1次憲法改正	56
2. 第2次憲法改正と新しい政治制度の出現	64
第4節 1945年憲法の変容と「議会優位型大統領制」における政治	70
おわりに	75
〔資料〕1945年インドネシア共和国憲法全文	87

第3章 ポスト・スハルト時代の政党政治

変化と連続性	リザル・スクマ(川村晃一 訳)..99
はじめに	99
第1節 インドネシアにおける政党政治 政党の興亡	100
1. 政党の宗教的・イデオロギー的基盤	103
2. 「指導される民主主義」と政党システムの没落	106
3. 「新秩序」体制下における一党優位政党制	107
4. 「新秩序」体制の崩壊	111
第2節 複数政党政治の復活 変化と連続性	112
1. アリランを基盤とする政党 世俗的民族主義政党とイスラム政党	114
2. アリランを超えて ゴルカル党	118
3. 連続性と変化の諸要素	119
第3節 ポスト・スハルト体制期における政党政治の力学	
イデオロギー闘争かプラグマティズムか	124
1. メガワティの敗北	124
2. アブドゥルラフマン・ワヒド大統領の失脚	126
第4節 イスラム政党の統一を形成するうえでの問題	128

おわりに	政党政治と民主化移行における課題	132
第4章	支配から参加へ	
	民主化適応の国軍政治	本名 純...139
	はじめに	139
	第1節 国軍の政治介入 史的発展	140
	第2節 軍内対立と民主化対応	143
	第3節 スハルト政権下の国軍政治	146
	1. 二重機能の論理と実践	146
	2. 体制の矛盾	149
	3. 「政治開放」をめぐる軍と大統領の政治	151
	4. 大統領に忠実な国軍と「開放」の停滞	153
	5. 「改革派」将校の台頭	155
	6. テロルと対話	159
	第4節 ハビビ政権下の国軍政治	163
	1. テロルの後始末	163
	2. 国軍改革	164
	3. 社会不安と軍内守旧派	166
	第5節 アブドゥルラフマン・ワヒド政権下の国軍政治	170
	1. 東ティモール問題の後始末	170
	2. 急進改革路線	172
	3. 強行路線の前進	174
	4. 政権サボタージュと軍のジレンマ	177
	第6節 展望と課題	181
第5章	地方分権化と国民国家形成	松井和久...199
	はじめに	199
	第1節 地方行政の歴史的展開	202
	1. スカルノ時代の地方行政	202
	2. スハルト時代の地方行政	206

3 .	ポスト・スハルト時代の地方行政	208
第2節	せめぎ合う中央と地方 資源をめぐる適正利益配分問題	210
1 .	1950年代の地方反乱の背景	211
2 .	資源開発における中央政府，地方政府，外国資本	215
3 .	分離独立論噴出の契機	218
第3節	地方分権化の現状と問題点	226
1 .	懸念される現象	226
2 .	好ましい現象	229
3 .	地方分権化と資源をめぐる地方の思惑	231
第4節	学習機会としての地方分権化	233
第6章	経済再建と所有再編	
	経済所有構造への介入政策の視点から佐藤百合...247
	はじめに247
第1節	インドネシアの経済政策	
	なぜ「経済所有構造への介入政策」か249
第2節	経済所有構造への介入政策の歴史的展開250
1 .	プリブミ資本によるインドネシア化 議会制民主主義期250
2 .	国家資本によるインドネシア化 スカルノによる指導民主主義期253
3 .	華人資本の動員 スハルト体制確立期255
4 .	プリブミ大資本の育成 スハルト体制変容期261
5 .	スハルト時代末期における大企業部門の所有構造264
第3節	ポスト・スハルト時代における経済再建政策と所有再編269
1 .	銀行と企業の再建政策269
2 .	銀行と企業グループの分離271
3 .	国内債務企業の整理273
4 .	有力華人企業グループの解体275
5 .	凋落する民間大資本，伸長する国家資本と外国資本281
第4節	所有再編の現状と政策課題をどう捉えるか284

第7章 工業化の軌跡	石田正美...295
はじめに	295
第1節 分析の視点と工業化の指標および統計データ	297
1. 分析の視点.....	297
2. 分析で用いる指標	299
3. 統計データ・ソース	301
第2節 全産業における製造業の位置づけ	302
第3節 力強い輸入代替工業化と広範な輸出指向工業化(1971～85年).....	304
1. 輸入代替工業化政策の時代	304
2. 輸入代替工業化政策の成果の検証	306
3. 小規模ながら幅広い部門で進んだ輸出指向化	313
4. 輸入代替工業化に象徴される産業構造の変化	314
第4節 輸出指向と選別的な輸入代替の時代(1985～90年).....	316
1. 相次ぐ規制緩和政策パッケージに象徴される時代的背景	316
2. 軽工業部門を中心にほとんどの部門で伸びた輸出比率	317
3. 素材部門に限定された輸入代替化	319
4. 輸出指向化と選別的な輸入代替化で特徴づけられる産業構造の変化...321	
第5節 輸出指向化の減速・後退と輸入代替化の復活(1990～95年).....	324
1. 実質為替レートの上昇と景気変動の著しい時代	324
2. 幅広い部門で小規模ながら認められる輸入代替化の復活	325
3. 多くの部門で後退した輸出指向化	330
4. 輸入代替化を反映した産業構造の変化	332
第6節 経済危機を通じた産業構造変化(1995～99年).....	334
1. 好景気の後の経済危機	334
2. 高成長から経済危機へ	335
3. 経済危機下の状況	338
4. 経済危機からの回復過程	339
5. 経済危機を挟んだ産業構造の変化	340
第7節 まとめと今後の展望	342
1. まとめ	342

2. 産業部門別の課題	345
3. 今後の展望	347
第8章 金融部門の形成と構造変化	武田美紀...357
はじめに	357
第1節 金融部門に関する政策の変遷	358
1. 金融システム構築期：1966～72年	359
2. 石油ブーム下の政策金融期：1973～82年	363
3. 金融改革期：1983～91年	365
4. 金融拡大期：1992～97年	368
5. 金融再構築期：1998年～現在	371
第2節 金融市場の反応	373
第3節 商業銀行の財務指標分析	379
1. 銀行別にみた財務・経営指標	383
2. 銀行別にみた資産構成と資金調達	388
3. 財務指標分析のまとめ	394
おわりに	396
索引	403